



在占星師愛小姐算 命先生的回憶



鳥越敦司 atushi torigoe

在占星師愛小姐算命先生的回憶

前29年年前將從現在的東西被要求評價遇見愛小姐占星家。當時、私は熊本にいて福岡に行った時にある占い師を見て、その人を通して福岡市の天神コアビルで占い師のチャリティに行ってみた。當時、我看看，當我去福岡算命先生在熊本，我去了通過人福岡市天神核心構建的慈善算命先生。

その時に東京から来ていたのがマドモアゼル愛と紅有里だった。都來自東京在當時是小姐愛與紅螞蟻。もう一人は福岡市の占い師だったと思う。我認為另一次是福岡市の算命先生。マドモアゼル愛と紅有里にみてもらった。我已經看到了愛和紅色尤里小姐。紅有里は今はずでにこの世にいない。貝尼·阿里現在已經沒有在這個世界上。紅有里が言った事は、もう忘れてしまった。紅阿里說，我已經忘記了。さて、マドモアゼル愛。好吧，小姐的愛情。その頃、炎愛という名前でどこかに書いていたのを見たことがあった。當時，已經看到了書面的地方命名的火焰愛情。実際に見ると今の顔とは少し違って、もちろん若いし、髪の毛もまだ普通にあった。有一點從實際看起來不同，現在的臉，當然要年輕的，頭髮也是在仍然普遍。チャリティ箱に五百円入れて、占いの始まり。把500日元給慈善機構中，算命的開頭。

マドモアゼル愛は、愛小姐，

「あなたはふつうの職業ではだめですね。」 “那你是普通的職業也沒用。”

とかいう事を言った。我說的是什麼。

「今は何をされていますか。」 “難道我們一直在做正確的。”

「陸上自衛隊です。」 “這是陸上自衛隊部隊。”

「うん、それも普通じゃないな・・・。」 “是的，這也是usually'm沒有做.....”

「前は壁紙の会社で働いていたんですけど。」 “我以前，我在公司的牆紙的工作。”

「それは、だめです。」 “這是沒有用的。”

とマドモアゼル愛は言うと言を横に振った。和愛小姐搖搖頭說。

「何か金管楽器なんかやるといいですよ。」 “這是很好的做一些事情黃銅。”

とアドバイスしてくれた。我建议。

「とにかく職業はふつうではだめです。」 “反正職業是無用普通的。”

とか何とかも。甚至或什麼的。それから私は普通のサラリーマンをやった事がない。再有就是沒有的事我已經做了普通上班族。朝、通勤電車に乗って会社に行ったのも合計で半年にも満たないだろう。清晨，不會少於六個月總也到了公司坐上通勤列車。

そういう意味ではマドモアゼル愛の占いは当たった。愛打小姐的算命在這個意義上。もしかして、そのアドバイスを実行したのかも、とも思えるが、やはり自衛隊をやめても普通といえる職業にはつかなかったので占星術は当たるのだ。您的意思是，也許你跑的建議，貌似，但他命中占星術我沒有堅持職業，它可以說是平時甚至還在停止自衛隊。まあ、楽器は何もませんでした。那麼，儀器沒有做任何事情。だからアドバイスは実行していないわけだが。因此建議，但我的意思是沒有運行。

それから十二年くらいたって、あるところにあつたマドモアゼル愛の通信鑑定に然後，身高約十二年，姑娘的愛的交流評比，這是在某個地方申し込んでみた。試著報了名。郵便で鑑定は送られてきたが、その中に鑑定通過電子郵件已發送，但在

「あなたには億万長者の星があります。」 “還有就是你對百萬富翁的明星。”

と書いてあつた。向其寫入。その時も、現在も億万長者という状態には程遠いのだが、私も少しは占星術はわかるので、その占断はわかります。也是在那個時間。但它是遠離的狀態，目前還億萬富翁，因為我也有點占星術可以看出，Uranidan會發現。が、時期は特定してなかったし、私もいつかはわからない。但是，它沒有確定的時候，我甚至不知道總有一天。

在占星師愛小姐算命先生的回憶

<http://p.booklog.jp/book/106588>

著者：鳥越敦司 atushi torigoe

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/dontanine/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/106588>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/106588>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ